

平成 27 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：名護市

協定締結集落名：名護（城、辺野古、汀間）

交付金額合計：5,440 千円

（1）基本交付金：5,440 千円

（2）新規就業者特別対策交付金：0 千円

協定参加世帯数：40 世帯、85 人（うち漁業世帯 40 世帯、79 人）

都道県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入 2,760,097 円

集落の平均漁業者所得 721,568 円

2. 協定締結の経緯

本市の漁業は、県内でも有名なピトゥー漁をはじめとし、一本釣り、定置網、刺し網等様々な漁法を用いて営まれてきた。3 面の豊かな海域が広がりそれぞれ特色がある漁場は、漁業者がこれを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。しかし、自然環境の悪化などによる漁獲量の減少や、魚価の低迷による、漁業者の所得が低下し、本市の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。

このため本市は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合は既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・業法の漁法の導入などに取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施し、地域漁業の活性化及び漁獲高の向上を目指して離島交付金による漁業再生活動に取り組む事とした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

・産卵場・育成場の整備

近年漁獲が減少しているアオリイカの漁獲量の向上を図るため、イカの産卵床を 25 基設置した。

・漁場監視

資源保護と漁獲安定のため密漁などを防止する為、看板を 10 基設置した。

- ・パヤオ製作設置

まぐろ類の漁獲量の向上を図るため、浮漁礁を1基製作し、汀間沖に設置した。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

- ・体験漁業の取組み

漁業に興味を抱かせ、新たな担い手を育成する為、体験漁業の取組みとして、保育園児を対象にセリの見学や種苗放流を実施した。

- ・魚食普及活動

漁家所得の向上を図り、漁業集落を活性化させるために水産物直販所と連携し、名護さくら祭り開催日に魚食普及イベントを実施した。

4. 取組の成果

- ・産卵場・育成場の整備

設置した産卵場へのアオリイカの産卵が確認されており、近年いか類が安定的に水揚げされている。

- ・漁場監視

利用者の多い場所へ看板を設置したことで、漁業権の周知が図られた。今後も引き続き漁業権の周知を行い、密漁等の防止を図っていきたい。

- ・パヤオ製作設置

浮漁礁は設置後3カ月以上経ってから魚が集まり始めるので、追跡調査を行い経過観察する。今後、魚が集積されれば、まぐろ類の漁獲量増加に期待できる。

- ・体験漁業の取組み

保育園児26名、中学生2名に対し、漁業活動や魚について知ってもらう事が出来た。漁業や魚に興味を持ってくれる子供たちが増える事を期待したい。

- ・魚食普及活動

まぐろ解体ショーとイカ墨汁の試食配付を実施し、約1200名の来場者に対し、地元水産物の地産地消を推進することができた。今後の消費拡大が期待できる。



産卵場・育成場の整備



漁場監視



パヤオ製作設置



体験漁業の取組み



魚食普及活動